

2 各学部の令和7年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部

1. 令和7年度家政学部 FD 委員会構成

委員長：水谷千代美（被服学科）

委員：原木英一（被服学科） 小清水孝子、小林実夏（食物学科） 大谷洋貴（児童学科） 中川まり、
宮田安彦（ライフデザイン学科）

大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：中島永晶（家政学部長）

2. 授業改善のためのアンケート

令和7年度「授業改善のためのアンケート」はUNIPAを利用したWEB方式での実施とし、昨年同様に、専任教員・非常勤教員が担当する原則全科目の実施対象とした。

前期（実施時期：学期末）・後期（同、学期末）とも同じ設問構成とし、設問数全9問（選択式は6段階）により執り行った。回答依頼は、教員の任意とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。実施期間は、前期は令和7年7月7日（月）～7月19日（土）までで実施し、後期は7年12月8日（月）～12月20日（土）までで実施した。

以下、「授業改善のためのアンケート」調査の実施とその集計結果等、概況を記す。

①前後期実施状況

家政学部 回答者数／履修者数 前期：17,073名／30,691名 （回答率55.6% *昨年43.7%）

後期：12,830名／27,840名 （回答率46.1% *昨年36.1%）

②総評：家政学部全体として

「満足度」(Q9)の平均点は、前期4.44、後期4.40であった。前年度は前期4.43、後期4.40だったので、前後期ともにほぼ昨年同様の結果となった。他の設問についても、ほぼ昨年同様の結果となった。

③家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「外国語科目」では、多くの設問で全体の平均点を下回り、「管理栄養士専攻専門科目」・「ライフデザイン学科専攻科目」後期では全体の平均点を上回る設問が多い。Q5（授業外学修時間）をみると、専門科目では0.1ポイント以上高い結果が多くみられた。

④家政学部全体と授業形態別を比較して

「実技」「実験」「実習」が全体の平均点を上回る項目が多い結果であった。「実技」ではQ5（授業外学修時間）は全体の平均点を下回っている。Q6（教員からのフィードバック）をみると、全体を大きく上回る授業形態が多いが、「講義」では前後期ともに下回っている。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

⑤家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

例年同様に、「1～15名」が全体の平均点を上回る項目が多く、クラスサイズが大きい程、低くなる傾向である。Q4（授業への参加）をみると、「1～15名」と「16～30名」は前後期ともに0.1ポイント以上高く、「76～100名」後期、「101名以上」前後期で0.1ポイント以上低くなっている。Q6（教員からのフィードバック）をみると、「1～15名」は前後期ともに0.1ポイント以上高く、「101名以上」後期では0.1ポイント以上低くなっている。

⑥家政学部全体と5学部所属学科専攻別を比較して

「食物学」、「児童教育」が全体の平均点を上回る項目が多く、「情報デザイン」、「アジア文化」が下回る項目が多い結果であった。Q5（授業外学修時間）をみると、「被服」の前期、「食物学」・「ライフデザイン」の後期、「管理栄養士」・「児童教育」の前後期で0.1ポイント以上高くなっている。

なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

3. 学部専任教員によるFD報告

今年度も昨年度と同様に、後期授業アンケート結果も示された後、令和8年2月27日に、以下の要領で家政学部4学科のFD委員を通じて、学部教員にFD報告書の作成を依頼した。各教員からFD報告文を回収することとした。

質問項目については、昨年度のものを参考に、令和7年度の状況をふまえ、FD委員会にて検討した結果、以下A～Cの3項目について、自由選択の任意回答とし、一人当たりの総記述量が15～20行（最大800字相当）に収まるよう報告文の作成を依頼した。回収はメールによるものとし、2026年3月16日受取までを期日として実施した。以下A～Cの3項目の中から自由選択式で、記名入り報告文を各教員からメールにて回収した。

-
- 項目 A：今年度の授業アンケート実施科目のうち1科目を選択し、その結果を踏まえた次年度以降の取り組みについて記して下さい。
 - 項目 B：アクティブ・ラーニング（チュートリアル型または実践体験型）を実施した授業について、その効果や問題点を挙げてください。実施しなかった授業については、それを検討する際に感じた障壁・問題点を記してください。
 - 項目 C：学生がレポートや卒業論文においてAIを使用したと思われるケースはありましたか。その対処について悩まれた点を記してください。
-

4. 本年度の家政学部FD委員会による主な報告・審議事項

令和7年4月19日に、令和6年度「家政学部FD活動報告書」提出と学部教員への頒布（PDF方式）第1回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（5月21日：①「授業改善のためのアンケート」実施科目（案）の検討）

なお、令和7年度の活動報告の詳細については「2025年度家政学部FD報告書」を参照されたい。「家政学部FD報告書のアンケート分析については過年度同様、株式会社教育ソフトウェアに外部委託し、令和8年2月13日に発注、3月31日に納品された。

5. 次年度への課題と引き継ぎ事項

- ・家政学部としての学部内FD活動の検討と実施（今後のFD活動の在り方の模索と研修企画の立案）
- ・令和8年度の「授業改善のためのアンケート」の適切な実施のための委員会としての留意事項の確認、ならびに、アンケート結果からのフィードバック等活用についての学部内検討

以上

(2) 文学部

1. 令和7年度文学部 FD 委員会構成

委員長：石川千暁（英語英文学科）

委員：木戸雄一（日本文学科）、倉住薫（日本文学科）、大島範子（英語英文学科）、榎本恵子（コミュニケーション文化学科）、上村博昭（コミュニケーション文化学科）

2. 授業に関する意見交換

各学科において、授業の進め方や指導法、学生への対応と情報共有、授業資料の共有や共通テキストの検証等、授業に関する意見交換を随時行い、授業の改善に努めた。

3. 授業担当者懇談会

例年実施されている授業担当者懇談会は、今年度も予定通り5月10日（土）に各学科で実施された〔日本文学科・英語英文学科：対面、コミュニケーション文化学科：オンライン（Zoom）〕。学生の学力や意欲の傾向の共有をはじめとして、授業の進め方や学生対応、manabaやUNIVERSAL PASSPORTといった教育支援システム、大学の施設・設備等について、非常勤講師と専任教員との間で具体的な情報提供や意見交換がなされた。

4. 学科のFD活動（学生懇談会）

文学部では専任教員と学生との懇談会「文学部学生懇談会」を2021年度より開催している。本懇談会の目的は、文学部をめぐる教育・学習環境、授業、学生生活全般に関して、授業改善のためのアンケート等では届かない多様な意見や要望を、学生との懇談を通じて集約することにある。昨年度は学科ごとの開催としたところ、学生が意見を述べやすく、各学科の特性に応じた意見を集約しやすいという効果が認められたため、今年度も同様に学科ごとに実施した。以下、各学科の実施状況について述べる。

日本文学科では、2025年12月18日（木）の昼休みに対面で開催した。学部FD委員2名および日本文学科長が出席し、参加した学生数は9名であった。

英語英文学科では、2025年11月27日（木）の昼休みに対面で開催した。学部FD委員2名および英語英文学科長が出席し、参加した学生数は5名であった。

コミュニケーション文化学科では、2025年12月15日（月）の昼休みに対面で開催した。学部FD委員2名およびコミュニケーション文化学科長が出席し、参加した学生数は5名であった。

事前広報として、学科ごとにmanabaのコースニュース配信やポスターの作成・掲示、授業時の案内等を通じて学生への周知に努めた。また昼休みに設定し、事前の申し込みは不要として気軽な参加を促した。

学生との懇談は例年同様に自由討議形式とした。参加した学生からは、授業およびカリキュラム、教室や図書館等の学習環境・設備、学食やロッカー・事務手続きなど学生生活に関わること等、具体的で多様な意見・要望が提示され、充実した懇談会となった。対面で直接、学生の視点からの声を集約するという点で、教員にとっても気づきの得られる、大きな意義のある活動であった。懇談会を通じて学生から得られた意見・要望等は「2025年度大妻女子大学文学部FD活動報告書」において学科ごとにまとめている。

5. 学会活動

各学科の学会活動も活発に行われた。以下に列挙する。

日本文学科：2025 年 7 月 3 日（木）国文学会総会、同年 9 月 25 日（木）卒業論文中間発表会、同年 12 月 16 日（火）国文学会例会。

英語英文学科：2025 年 6 月 3 日（火）総会（紙面）、同年 11 月 19 日（水）秋季例会、同年 12 月 23 日（火）レシテーションコンテスト、2026 年 1 月 29 日（木）卒業論文発表会。

コミュニケーション文化学科：2025 年 4 月 4 日（金）新入生オリエンテーション・歓迎会、同年 6 月 9 日（月）総会・講演会、同年 11 月 11 日（火）例会（プレゼンテーション大会）、2026 年 1 月 27 日（火）例会（卒業論文発表会）。

6. 授業改善のためのアンケート

例年実施されている「授業改善のためのアンケート」は、今年度も前期と後期の 2 回、前期は 7 月 7 日（月）から 19 日（土）、後期は 12 月 8 日（月）から 20 日（土）の期間に学内ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT にてオンラインで実施された。アンケートの実施対象としては、これまでの方針に従い、特殊な実施形態の科目（卒業論文・ゼミ・オムニバス等）や少人数履修者科目のような例外を除いて、原則として全ての授業を対象として実施された。

資料「授業改善のためのアンケート集計結果（文学部全体）」に示されたアンケート回答者数および回答率は次の通りである。アンケート回答者数は、前期 13,772 名、後期 11,245 名、前後期合算で 25,017 名であった。受講者数は前期 24,227 名、後期 22,853 名であり、回答率は前期 56.85%、後期 49.21%となっている。前期はいずれも過半数を超える回答率を示しており、学生の関心や協力姿勢が一定程度確保されている状況がうかがえる。

前期と後期を比較すると、回答者数・回答率ともに後期で低下する傾向が見られる。これは例年見られる傾向と同様であり、後期アンケート実施時期が学期末にあたり、定期試験や年末行事等が重なることによる影響も考えられる。特に後期においては、授業内での周知や回答時間の確保など、より具体的な働きかけを行うことが回答率維持・向上の鍵となるだろう。アンケートは授業改善の基礎資料であることから、学生にその意義を共有しつつ、主体的な回答を促す取り組みを継続していく必要がある。

なお、具体的な設問に対する回答結果として、設問 3、4、6～9 の文学部全体平均値は、前期 4.35、後期 4.30 であった。いずれも 4 点台を維持しており、全体として高い評価水準が安定している。とりわけ新しい知識等の習得を問う設問 7 は前期 4.50、後期 4.46 と、全設問中でも上位に位置する高評価を示している。わずかな数値の変動はあるものの、前後期を通じて 4.4 点台後半を維持していることから、学生に強く支持されている項目であると考えられる。また、授業の進め方、教員の工夫やフィードバック、学生自身の積極的な参加や学修成果等を問う設問 3、4、6、8 も概ね 4 点台前半から中盤で推移しており、授業運営や学修支援の取り組みが一定の成果を上げていることが確認できる。設問 9 の授業に対する満足度も前期 4.43、後期 4.41 と高水準を示しており、全体として安定した満足度が維持されている。詳細な分析については、2025 年度文学部 FD 活動報告書において学科別に検討する予定である。

以上

(3) 社会情報学部

1. 令和7年度社会情報学部FD委員会の構成

委員長 市村哲（情報デザイン専攻）

委員 山田幸三（社会生活情報学専攻主任）、大橋寿美子（環境情報学専攻主任）、木村ひとみ（環境情報学専攻）、田中清（情報デザイン専攻主任）、杉山昂平（社会生活情報学専攻）

オブザーバー 関えいこ（学務助手：庶務・記録）

2. 令和7年度のFD活動の概要

今年度は社会情報学部が組織的なFD活動を開始してから24年目に当たる。これまでの活動の成果を継承しつつ、社会情報学部FD委員会を計10回（4月9日、5月7日、6月11日、7月9日、10月8日、11月5日、12月3日、（文章協議）1月7日、2月5日、3月3日）開催し、多彩なFD活動に取り組んだ。また、Google Drive上の共有フォルダも活用し、より緊密な情報共有・意見交換に努めた。

なお、活動の詳細については、『令和7年度社会情報学部FD活動報告書』にて報告する。

以下、箇条書きにて各活動について概要を記す。

①入学時の学生生活調査

令和7年4月1日～4月30日実施。

新入生に対し、アンケート調査を行った。

②特定枠プロジェクト研究への助成

令和7年4月16日～6月6日募集。応募なし。

③より良い授業評価アンケートのための教育活動

令和7年4～7月実施。

新入生に対し、基礎演習（「社会生活情報基礎演習」「環境情報学基礎演習」「情報デザイン基礎演習」）において、「授業評価アンケート」の目的や意義などについて解説を行った。

④教員相互の授業公開および参観

令和7年9月29日（月）～11月8日（土）に実施。

⑤FD研修会

令和7年9月17日（水）にZoomを用いたリアルタイムオンライン形式にて実施した。

講師 大野江奈（障害学生修学支援室）、中野希大（情報デザイン専攻）：

「障害学生、要配慮学生への対応について」

⑥FD研究会

令和7年9月17日（水）、FD研修会終了後にZoomにて実施した。

報告：磯山直也（情報デザイン専攻）「スクリーンタイムからグリーンタイムへの情報デザインPBLプログラムの試行」

⑦卒業時の学生生活調査

卒業予定者に対し、アンケート調査を行った。

⑧教員と学生の意見交換会

令和7年11月26日（水）にZoomにて実施した。テーマは「インターンシップとキャリア形成プログラム」とし、専攻別の3グループに分かれて「3年生のうちに何をしておくべきか」等について議論を行った。

⑨休講の状況の把握

令和7年度における休講およびそれに伴う補講の状況について把握した。

⑩「授業改善アンケートに関する教員のご意見」集の作成

各専任教員から令和8年2月～3月に受け取った「授業評価アンケートに関する意見」をまとめた。

⑪履修登録の抽選（受講者調整）に関する状況の把握

⑫他大学の学生参画型FD活動に関する資料収集

⑬オフィスアワーの設定

昨年同様、対面形式とオンライン形式を併用したオフィスアワーを設定した。いずれの場合でも90分の教員のアクセスを確保することとした。

⑭『令和7年度社会情報学部FD活動報告書』の作成

令和8年5月に完成予定である。

3. 来年度に向けての課題

Google フォームを用いて調査を行うようになってから、入学時の学生生活調査および卒業時の学生生活調査の回収率が低下している。この改善が喫緊の課題と考えられる。そのほか、履修登録の抽選をめぐって生じている問題への対策が挙げられる。

以上

(4) 人間関係学部

1. 令和7年度人間関係学部FD委員会構成

齊藤豊（人間関係学部学部長） 福島哲夫（人間関係学科長） 上野優子（人間福祉学科長）
牛山美穂（人間関係学科社会学専攻） 三好真（人間関係学科社会・臨床心理学専攻：人間関係学部FD
委員長）原野かおり（人間福祉学科）

2. 令和7年度人間関係学部FD活動一覧

- ・ オフィスアワー 原則、対面で実施
- ・ 授業担当者懇談会
（社会学専攻）令和7年5月24日
（社会・臨床心理学専攻）令和7年5月24日
（人間福祉学科）令和7年5月24日
- ・ 人間関係学部FD研修会（人間関係学部FD委員会主催） 令和7年12月12日
- ・ 保護者懇談会 令和7年10月25日
- ・ 学友会代表とFD委員会・教職員との懇談会 令和7年12月12日

3. 各FD活動の内容

① オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のUNIPAでこれを公開している。本年度は基本対面で一部オンラインの組み合わせにより実施した。

② 授業担当者懇談会の実施

例年前期に実施している非常勤講師の先生との授業担当者懇談会を今年度も5月24日に実施した。教育懇談会の内容については、令和7年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

③ 人間関係学部FD研修会の実施

12月12日に「研究と教育への新たな展開 ～多様な技術を活かす方法 part2～」という全体のテーマのもと、3つの分科会にわかれ、それぞれの対面の座談会形式で話し合われた。3つのテーマは「授業の展開の方法～AI ツールの活用など～」 「教員の研究と大学教育、ワークライフバランスの両立や展開の方法」 「ゼミの指導方法～授業の展開の方法、活動内容、キャリア教育など～」である。研修会の内容と参加者の意見については、令和7年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

④ 授業改善のためのアンケートの実施

令和7年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。授業改善のためのアンケートも実施しており、令和7年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

⑤ 学友会代表とFD委員会・教職員との懇談会の実施

教育の質の更なる向上に向けて、令和7年度においても、12月12日に学友会代表と学友会委員の学生との意見交換を行った。意見交換の内容については、令和7年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

⑥各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、英語教育運営委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

その他、より良い授業を目指すための環境やメディアに関する設備等に関して各事務部署と連携を取っている。

⑦各学科・専攻におけるFD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。昨年に引き続き、対面で行われた人間関係学部FD 委員会主催の研修会では、他学科・他専攻の教員がそれぞれの研究や授業に対する内容を積極的に共有しており、引き続き今後の教育内容の向上につなげることを期待している。上記にある通り、研修会の詳細は令和7年度人間関係学部FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

⑧クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和7年度人間関係学部FD 報告書の中でも各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以上

(5) 比較文化学部

1. 令和7年度比較文化学部 FD 委員会構成

委員長：安藤恭子、委員：城殿智行、貫井一美、米塚真治

2. 本年度のFD活動の報告

I. 「授業改善のためのアンケート」実施

① アンケート実施時期と実施方式：本年度は以下のように実施した。

【前期】期間：令和7年7月7日(月)～7月19日(土)

方法：全ての対象科目において、学生はUNIPAから回答する。回答率の課題から、本年度は授業内で回答する方法を徹底した。

【後期】期間：令和7年12月8日(月)～12月20日(土)

方法：前期と同様の方法によって実施した。

②実施対象：

基本的にすべての科目を対象にアンケートをおこなうが、比較文化学部では、演習授業（3年次必修の比較文化演習ならびに4年次必修の比較文化セミナー）を対象科目から除外した。また、学生の匿名性を担保するため、受講者数が10名以下の科目も除外した。

③実施科目の受講者数と有効回答数

アンケート実施科目の累計受講者数は、前期 20,654 名、うち有効回答者数 12,439 名（回答率 60.2%）であった。後期アンケート実施科目の累計受講者数は 19,425 名、うち有効回答者数 10,142 名（回答率 52.2%）であった。昨年度前期 44.9%、後期 38.5%からは大幅に上昇した。

④集計

回答の集計処理は大学が委託した外部業者がおこなった。全体および各授業別の集計結果のほか、所属学科・学年・授業方法（演習・講義等）・職名（専任・兼任）・クラスサイズ・担当教員年齢・授業形式（対面／オンデマンド等）・授業区分（教養・専門）・言語（スペイン語・ドイツ語・フランス語・英語・韓国語・中国語）別の集計結果を得た。

⑤アンケート結果の伝達

授業ごとの集計結果は、学生の回答期間終了後に担当教員がUNIPAで直接確認することができる。授業担当教員にその旨を告知し、FD委員会からもリマインドをおこない周知した。

⑥教員からのフィードバック

教員からのフィードバックの集計には、Google フォームを使用した。その結果、前期は専任教員 15 名、非常勤教員 10 名の計 25 名から、後期は専任教員 15 名、非常勤教員 5 名から回答があった。初年度教育の難しさなど、コメントからは今後の課題が示された。

⑦公開するアンケート集計結果について

アンケートの詳細は、『比較文化学部 FD 委員会報告書』として学内教職員サイトに掲載する。

II. 授業担当者懇談会

本年度は、5月10日（土）に授業担当者懇談会・懇親会が対面で開催され26名が参加した。その際、FD委員から昨年度までの状況と課題について説明した。非常勤の先生方から出された問題点（学生の教科書購入、語学の習熟度など）について対応が検討された。

Ⅲ. 保証人と教員との懇談会

本年度は、11月8日（土）に対面で開催した。69名という多数の参加者があった。学生の修学・海外での学びについて情報を提供した。クラス担任・ゼミ担当者の個別相談もおこなった。

Ⅳ. カリキュラム改定に対応するための教員懇談会

カリキュラム改定によって新設される「体験で学ぶ比較文化」について、担当教員の共通認識を得ることを目的として、1月7日（水）に懇談会をおこなった。

Ⅴ. 比較文化学部主催FD講演会（前後期1回ずつ、計2回）

講演会后、参加教員のアンケートをおこなった。「高校までの授業の実態と課題が大学の抱える課題と共通していることを知り、大学での教育にたいへん示唆的であった」「今後の高大連携への手がかりがつかめた」などの意見があり、有意義な講演会であったと言える。

【前期】期日：6月23日（月） 講師：押山均氏（東進ハイスクール）

テーマ：「2026年度入学前教育について」

【後期】期日：2026年2月10日（火） 講師：赤塚宏子氏（大妻中学・高校校長）

テーマ：「大妻中高における教育の現状と工夫」

Ⅵ. 学会活動

10月6日（月）、大妻講堂にて「比較文化学会」を開催した。その中で、「卒業論文中間発表」「留学報告会」をおこなった。学生自身の発表により、卒業論文の意義、海外で多様な文化を学ぶ意義が語られ、多くの学生に良い刺激が与えられた。発表の概要とその感想は、比較文化学部が刊行している学会誌「カリオペ」（比較文化学部HP内）に掲載した。

Ⅶ. 比較文化学部独自の「卒業アンケート」

ディプロマポリシー達成度を知ることを目的とし、比較文化学部の学びについて、学生がどのように考えたか、どの程度満足したかについて問うアンケートをおこなっている。

Ⅷ. オフィスアワーの実施

比較文化学部では、学部のホームページ上にオフィスアワーを掲示し（教員紹介ページ内）、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。

以上

(6) データサイエンス学部

1. 令和7年度データサイエンス学部FD 委員会構成

委員長：永瀬伸子（データサイエンス学科）

委員：田島友祐（データサイエンス学科）

2. 授業改善のためのアンケート

● アンケート実施時期と実施方式

UNIPAを利用したWEB方式とし、学部設置初年度のため、複数教員によるオムニバス方式の講義以外の全科目に対して原則実施対象とした。前期（実施時期：学期末）ならびに後期（実施時期：学期末）とも同じ設問構成（原則6段階評価による全10問の選択式）により執り行った。アンケート実施期間の開始については、UNIPAから学生に通知されるが、専任教員には極力授業時間内に時間を設けることで自由な雰囲気での回答を促すとともに、回答時間の確保についても協力いただいた。初年度であることから前年比較はできないが、専任教員間で結果を共有している。

【前期】

期間：令和7年7月7日(月)～7月19日(土)

【後期】

期間：令和7年12月8日(月)～12月20日(土)

実施状況

データサイエンス学部

回答者数／履修者数 前期：10,797名／17,823名（回答率60.1%）

後期：8,807名／16,870名（回答率52.2%）

（なお一般教養・語学科目等を含めデータサイエンス学部生が受講できる授業全体の回答である）

データサイエンス専門科目（新設学部のため、1年生のみの回答となる）

回答者数／履修者数 前期：410名／475名（回答率86.3%）

後期：418名／596名（回答率70.1%）

3. 学部FD活動

3.1 前期、および後期の授業懇談会

前期ならびに後期終了後、専任教員による懇談会を実施した。具体的な内容としては、大妻女子大学の講義に関するシステムや設備、学生の学びの姿勢、類似した講義形態をとる教員への情報共有である。

【前期授業懇談会】令和7年8月1日（金）

内容：

- 入門演習Ⅰ（経営・経済系の専任教員が担当）からⅡ（統計・情報系の専任教員が担当）への情報共有、前期授業で培ったスキルの確認と共有
- manaba、UNIPA、respon、office、Google Drive の活用について

【後期授業懇談会】令和8年2月12日（木）

内容：

- 1年生が培ったスキルの確認と共有
- 一年間通して実施した工夫、令和8年度実施予定の工夫

3. 2 オフィス・アワーの実施

学部のホームページ上の教員紹介各ページにオフィス・アワーを掲示し、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。時間は1講義分である90分を提示し、対面形式やオンライン、オフィス・アワー以外の時間調整などについては各専任教員へのアポイントによって柔軟な対応ができる体制となっている。

3. 3 学年担任制と学生の様子との共有

学年担任が6月に1年生全員に対して10分間の面接を実施した。前期の中盤ということで出席や講義内容の理解に加え、大学生活などで困っていることなどをくみ取るとともに、その内容を授業懇談会だけでなく、適宜該当教員間や委員会で共有することで、学生の教育効果を高める試みを実施している。

3. 4 授業担当者懇談会

令和7年度では非常勤講師がいなかったため懇談会は実施していないが、令和8年度では非常勤講師がいるため、令和8年度5月16日（土）実施予定の授業担当者懇談会にて対面実施する予定である。

4. 学生との懇談会

学生との懇談会は令和8年1月22日（木）に、新1年生歓迎準備会の話し合いの後に実施した（1年生7名が参加）。新1年生にどんなことをしてあげると入学後がスムーズかについて聞き取りを行い、大学に慣れる上で具体的に何に困ったか、授業の中で友人を増やすための工夫等について、学生からの提案を得た。

以上

(7) 短期大学部

1. はじめに

短期大学部 FD 委員会は家政科 3 専攻からそれぞれ 1 名の計 3 名の専任教員によって構成されている。令和 7 年度委員会では、前年度に引き続いて以下①から⑦の項目を中心に FD 活動の実施・検討を行った。

- ① 授業改善のためのアンケート ② オフィス・アワー ③ ホームページ ④ 保証人との懇談会
- ⑤ 授業公開 ⑥ 学習支援活動 ⑦ 全学 FD 委員会主催講演会への参加、FD 研修会の学科独自開催

2. 令和 7 年度の FD 活動の概要

活動の詳細は、令和 7 (2025) 年度 FD 活動報告書第 22 号Ⅱ章以降に掲載し、ここにはその概要を記す。

①「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD 基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。昨年度に引き続き、設問数は全 10 問で、実施は学内ポータルサイト「ユニバーサルパスポート (以下 UNIPA)」を利用してオンラインで行うものであった。アンケートの実施期間は、前後期とも、2 週間とした。アンケート期間終了後、各教員及び各専攻で、結果を踏まえた工夫を行うこととした。

②オフィス・アワーについて

専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。こうすることによって、学生に対し、教員の研究室の敷居を低くする効果が期待される。もとより、人数の少ない女子大のメリットを学生に及ぼすには、学習支援や進路相談等に関し、学生の心理的なハードルが低くなるよう、きめ細かな対応が必要なことは言うまでもない。オフィス・アワーの設置に関しては、このような考え方の中での措置である。

③ホームページについて

本年度も短期大学部広報委員会を中心に、家政総合コース、食と栄養コースの協力を得て短期大学部ホームページの維持と管理を実施した。

今年度は短大将来構想委員会の活動と連動し、学生募集に焦点をあてたホームページの更新作業を中心に活動を行った。

ホームページに関しては閲覧のための入り口が学院ホームページからのリンクが主なものとなるため、より多くの閲覧を獲得するためには、多くのエントランスポイントが必要となることは従来から課題となっていたが、そのための方策として、今年度から教員による「暮らしのブログ」を開設し、より多くの検索に結び付くよう工夫を行った。

④保証人との懇談会について

家政専攻では、全体で教務関係、資格関係、編入・就職活動など専攻で実施しているサポート内容をスライド、資料配布で紹介した後、クラス指導主任・副担任と保護者との懇談を 1 年、2 年に分かれて実施し、活発な意見や質問が交わされた。

食物栄養専攻では、教員との懇談会、及び、学生主体の「校外実習報告会」の参観を実施した。保護者から学生に関する様々な情報を得ることができ、良い交流の機会となった。

生活総合ビジネス専攻では、2 年生のみということもあって、開催を予定し参加を募ったものの、参加希望が 1 名であった。従って、会合という形態では行わなかった。

⑤授業公開について

今年度も、各専攻で、例年同様に授業公開を実施した。全専任教員が公開した。公開については、他の教員からのフィードバックを受けるという直接的な効果のほか、公開に耐える授業を行うという意思を各教員に形成させるという間接的な効果もあるという理解で行っている。

⑥学習支援活動について

短大生の入学時点の学力の格差はかなり大きい。学生の中には、四大進学の学力は十分にあるものの、経済的な事情で短大を選択せざるを得なかった者もいれば、身近に短大を卒業して四大卒に何ら遜色ない職業人生を送っているロールモデルがいるなどのポジティブな理由で短大を選択した者もいる。これらの学生は学力の水準が十分に高いだけでなく、主体的な学習の自分なりのスタイルを身につけている事例が少なくない。こうした学生に対しては、高い目標を意識させることが何よりも重要であり、進路に関する指導を早い段階から行うなどして、将来に関する視野を広げるよう指導した。

他方、高校までの基礎学力の形成が不十分で、学習して成果を出したという成功体験の乏しい学生が一定数いることも、否定し難い事実である。

こうした状況下、短期大学部では、学生の状況や個性、進路に関する希望などをふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。専攻内で教員間の情報交換を密にしつつ、助手まで含めた支援を行うことも少なくない。

⑦短期大学部主催 FD 講演会・FD 研修会について

短大独自の FD 講演会についてはこれまで縮小してきており、昨年度は全学 FD 委員会主催の年 2 回の講演会に参加するのみとし、今年度も同様とした。短大ベースと全学ベースで、FD という共通の目的に資する講演会の内容に大きな差があるわけではないことから、全学ベースのものへの参加によって、様々な角度からの有用な気づきを得ることができている。

また、FD 研修会は、各専攻の現状に合わせてそれぞれ独自の方法で行った。

8 年度以降は、生活総合ビジネス専攻が廃止されることから、短期大学部が一段と縮小する。こうした大きな変化に応じた方法を、8 年度の委員会で検討することとする。

以上